

# 薬理学CBT対策補習

科目責任者：藤 田 朋 恵（薬理学）

## I. 前 文

本科目では、CBTの中で薬理学に関する問題について補習する。CBTは医師国家試験に準じる重要な試験で、令和5年度（2023年度）から公的化された。CBT問題は令和2年度（2020年度）からモデル・コア・カリキュラム（コアカリ）に準拠している。現在、各大項目別の出題割合は以下のようなものである（共用試験ガイドブック2025年（令和7年）度 第23版）。

A 医師として求められる基本的な資質・能力	} 約10%
B 社会と医学・医療	
C 医学一般	約15%
D 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療	約35%
E 全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療	約20%
F 診療の基本	約20%

薬理学の問題は主にCとFに含まれるが、DとEの治療にも関係する。薬理学補習はCBTの一助になると考える。

## II. 受入可能人数

人数は制限しない。

## III. 担当教員

藤 田 朋 恵（薬理学）、 林 啓太郎（薬理学）

## IV. 学習内容

事前学習と当日の座学からなる。事前に配信された問題を講義前までに目を通し、できる問題を解答しておく。講義では、問題の答え合わせと解説をする。全6回。

## V. 学修の到達目標

CBTの成績が2024年度全国平均スコア513点、テスト得点としては75.8点に達すること（共用試験ガイドブック2025年（令和7年）度 第23版、23ページ）。

## VI. 成績評価の方法・基準

口頭試問（90%）、出席（10%）

## VII. 使用する教材・資料など

QB online 医学共用試験CBT、MEDIC MEDIA、2026年度版  
薬理学シラバスに記載している教科書、参考書、レジュメ

## VIII. 質問への対応方法

問い合わせ先：薬理学講座集会室（総合教育研究棟10階）、月～金曜日、9：00～17：00  
藤田：随時受け付ける。林：実験中以外は随時受け付ける。

## IX. 求められる事前学習、事後学習及びそれに必要な時間

事前学習（約15分）：LMSにて予習用の問題を配信するので、可能な範囲で解答すること。  
事後学習（約15分）：解答、解説を復習すること。

## X. コアカリ記号・番号

PS-01-03-31, PS-01-03-32, PS-01-03-33, CS-02-04-02, CS-02-04-03, CS-02-04-04, CS-02-04-05, CS-02-04-06, CS-02-04-07, CS-02-04-08, CS-02-04-09, CS-02-04-10, CS-02-04-11, CS-02-04-12, CS-02-04-13, CS-02-04-31

※ 但し、令和8年度のCBTの出題範囲はコアカリ平成28年度改訂版に準拠するため、以下のコアカリ記号・番号に該当する内容を講義する。

C-3-3) - (1) , C-3-3) - (2) , C-3-3) - (3) , F-2-8)

## XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

講義内で問題の解説を行う。試験問題のフィードバックは行わない。

## XII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養，利他の精神，医師に求められる品格を身につけ，豊かな人間性を育み，他の医療者と協調して，多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び，情報・科学技術を活用して，生涯にわたって自ら問題を発見し，解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と，その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し，課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み，医学・医療の進歩に貢献することができる	